平成24年度　　矢掛町立山田小学校学校評価書

【 本校のミッション 】	コミュニティースクール推進委員・学校運営協議会委員	学級数	7学級	児童数	79人
楽しい学校　勉強がわかる学校 ①学力をしっかりつける学校　②一人一人が大切にされる学校 ③たくましい体と豊かな心を養う学校　④子どもの側に立った環境づくりを進める学校　⑤家庭・地域とつながる学校		職員数	14人	家庭数	52戸
	（学識経験者）（小学校PTA）（地域コーディネーター）（民生児童委員）（ボランティア）（学識経験者）	専門評価委員	（学識経験者　岡山大学大学院准教授）		

A成果をあげている　B ほぼ成果をあげている　C あまり成果をあげていない　D成果をあがっていない

山田小学校

		中期目標	単年度目標	具体的計画	達成基準	自 己 評 価	評価
1	学力をしっかりつける学校	学ぶ意欲を高め理解を深める授業づくりをする。	「教えて考えさせる授業」の充実を図る。	校内研修や授業研究によって指導法を改善する。	アンケートにより、授業が楽しい児童が70%を超える。	アンケートの結果によると、授業が楽しいと感じている児童が 89%である。教師も校内研修や授業研究「教えて考えさせる」に取り組み、みんなが分かる授業を目指している。	A
2		国語と算数の基礎的・基本的な内容の確実な内容の定着を図る。	当該学年の国語と算数の基礎的・基本的な内容の到達度が8割以上になるようにする。	当該学年の国語と算数の基礎的・基本的な内容の到達度が8割以上の児童が80%を超える。	朝の学習、わかるタイムでは、ボランティアの協力を天で繰り返し学習することで、基礎的・基本的な内容の到達度が8割以上の児童が、国語76．7%、算数81．3%であった。引き続き、時間の確保及び内容の選定をして定着率が上がるように努めていきたい。	朝の学習、わかるタイムでは、ボランティアの協力を天で繰り返し学習することで、基礎的・基本的な内容の到達度が8割以上の児童が、国語76．7%、算数81．3%であった。引き続き、時間の確保及び内容の選定をして定着率が上がるように努めていきたい。	B
3		コミュニケーション能力の育成を図る。	全教育活動の中でコミュニケーション能力を育成する。	自分の考えを書いたり説明したりする機会を多く設定する。また、全教で4年生児童を対象に合同授業を実施する。全体の場で発表する機会を設ける。	アンケートにより、自分の考えを書いたり発表したりするのが得意である児童が70%を超える	授業で、自分の考えを書いたり説明したりする機会を多く設定したり、基本的な語彙を指導したりした。また、クラスでのフリートークや全体の場で発表する機会を意図的に設け、自分の考えや思いを表現できるようにしてきた。結果、考えを分かりやすく発表しようとする児童が87%いた。4年生対象の合同授業では、多人数の中で発表し、自信を持つ児童がいた。	B
4		家庭学習の充実を図る。	学年にあった家庭学習を提示し、学習への意欲をもたせたり規律を深めたりする。	家庭学習時間（10分×学年）を考えて家庭学習の内容を考える。 読書量を増やす。	アンケートにより、家庭学習時間（10分×学年）以上している児童が、70%を超える。 全校で年間2500冊（①500②1000③1000）を超える。	「家庭学習の手引き」を保護者に説明し配付することで徹底を図っている。また、教師間で共通理解を図り、機会をとらえて児童に指導している。82%の児童が、10分×学年以上の学習時間を確保している。児童の実態により時間に差があるので、自主的な学習の定着を図っていきたい。9月末で、1206冊の貸し出しがあった。今後、どんどん読書やブックルのクラスへの貸し出しなど、読書環境を整え、読書量を確保していきたい。	B
5	一人一人が大切にされる学校	特別支援教育の充実を図る。	個々の児童の実態を共通理解し、児童の困り感に応じた指導を目指す。	生徒指導終礼及びケース会議などで連絡を密にしたり、専門家の意見を参考にしたりすることによって、よりきめ細かい個別指導をする。	週一度生徒指導終礼及び必要に応じケース会議を行い、児童の実態や困り感を共通理解し、児童の心の安定を図ることができたか。	生徒指導終礼で困り感のある児童への共通理解が図れており、支援が必要な児童に関してはきめ細かく金曜夕方に対応している。今年度から生活支援員の先生が増員され2名になったので、発達的な出来事に対応する際の時間的・人的不足等の問題がある程度緩和された。引き続き考えるし、しかし、個別の学習支援を必要とする児童が約11%いるので、現状では学習の効果的な指導ができているとは言いにくいため、免許を有する教員の増員が望ましい。	C
6		いじめや不登校の生まれない環境整備をし、積極的な対応に取り組む。	何でも話すことのできる雰囲気作りに努め一人ひとりが大切にされる学級づくりや学校づくりを行う。	学級では「よいところ探し・クラス遊び」 全校では「縦割り班活動・なかよし集会」等を企画・運営する。 遅刻が多い児童等不登校予備軍について、専門機関と連携しながら対応し、不登校化を防ぐ。	なかよくなるカードのアンケートで、「学校が楽しい」と感じている児童が、80%を超える。　いじめゼロ。 不登校ゼロ。	集団・話休みに仲良くクラス遊びをしたり、異学年で遊んだりする姿が多く見られている。縦割り班活動では、高学年が低学年の世話を優しく行えている。なかよくなるカードでは「学校が楽しい」どちらかといえば楽しいと合わせて約90%であった。 不登校予備軍の児童には、学校のケース検討会議で対策を検討し、全職員が連携して指導にあたっている。	B
7		子どもの心に寄り添う教育相談や支援を行う。	児童の生活を見守り、児童の心のサインを見逃さない努力をする。問題があれば学校全体で解決にあたる。	なかよくなるカードのアンケートを基に教育相談日を学期1回設ける。	教育相談等で児童の話を よく聞き信頼関係づくりができたか。	児童のアンケートによると90%以上が「先生は自分の話を聞いてくれる」と感じている。また、学期に1回の教育相談日を設けて児童一人一人と話し、相談に応じている。問題があれば、生徒指導終礼等で話し合い、学校全体で対応している。	A
8	たくましい体と豊かな心を養う学校		外遊びを奨励し、進んで体を鍛えようとする態度を育てる。	友達と楽しく体を動かす子どもを育てるとともに、自ら進んで体力を向上させようとする態度を育てる。	元気タイム（月2回）を設け、体を鍛えるとともに運動に親しむ子どもをそだてる。各人への達の得点の高い児童について表彰する。昨年度の新体力テストの結果から、全国平均に比べ持久力・力強さ、敏捷を持続する能力が劣っている。それらの強化を図る。そして、今年度との比較をする。	名人への道（元気タイム取り組みカード）に意欲的に取り組み、個人の総合得点が10点伸び「たくましい子どもの割合が、学校全体の70%以上になったか。	元気タイムを、1学期に3回、2学期に4回実施している。まだ全ての種目を経験していないので、あと「得点の集計はしていないが、元気タイムの時間を楽しみにしている児童も多い。敏捷敏捷してC竹馬をしたり、休み時間に一輪車をしたりしている姿も見られ、元気タイム以外の時間にも「名人への道」に取り組んでいる。敏捷だけでなく、上級生が下級生に教えてあげる姿も当たり前にみられる。アンケート結果から、3割の児童が、体育の時間やゆみ時間等、運動を楽しんでいる。今後、柔軟や縄跳び等、家でも手軽にできそうな運動を紹介していき、学校と家とで体力向上を目指していきたい。	B
9			基本的な生活習慣の定着を図る。	「矢掛町あいは」（あいさつ・はきもの そろえ・「はい」の返事）の運動を充実させる。 早寝、早起き、朝ご飯の生活習慣を定着させる。	「矢掛町あいは」を毎日唱え意識を高める。 地域・行政との連携を保ちながら食に関する意識を高めていく。その中で長期休業中にチャレンジクッキング・親子料理教室を計画する。 元気アップカードを作成し、実施することで、より望ましい生活習慣が身に付くように。特に睡眠の大切さについて、児童保護者に対して、指導啓発する。	「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣が定着してきているか。元気アップカード得点7割以上達成できる子が学校全体の80%以上になったか。 食に関して関心・意欲が高まったか。 「矢掛町あいは」運動の実践が実践し、実践できているか。保護者・児童のアンケートで、できているが80%以上になったか。	「早寝・早起き」は、保護者とともに決めたあての時間が毎日守れている児童が約60%、早寝・早起きのために生活表検カードに「テレビ・ゲームの時間」の項目を設けたり、9月の学級懇談で話し合う機会を設けた。「朝ごはん」は、毎日食べている児童が約90%。内容が主食のみの児童も多いため、食への関心・意欲を高め、よりバランスの良い朝食摂取ができるよう生活会検カードや掲示物などを使って指導をしている。今後も継続した指導啓発により、より良い生活習慣の定着を目指していきたい。 「矢掛町あいは」は、保護者アンケートで、できていると答えたのは、返事は65%挨拶・履物揃えは80%以上、児童アンケートでは、3項目とも80%以上、毎朝低学年クラスで「矢掛町あいは」を唱えたり、各学年で履物揃え会検をしたり、週の学校目標に「挨拶・返事」の項目を取り入れたり、日常的に指導をし、児童も意識して実践に取り組んでいる。今後も継続して指導していきたい。	B
10	子どもの側に立った環境づくりを進める学校	教育環境整備に努める。	保護者と教師と児童が通学路の点検をし、安全マップを見直し、教室に掲示する。	保護者と教師と児童が通学路の点検をし、安全マップを見直し、教室に掲示する。 学級懇談等でも保護者の方に通学路の様子について尋ねる。	安全マップの見直しをし、教室に掲示、児童への意識付けができたか。	保護者・教師・児童が通学路の点検を行い、安全マップの見直しを行い、教室に掲示後指導を行った。昨年に比べ安全マップについて知っているという児童は84%から75%、通学路の危険箇所について知っているという児童は、87%から75%に減っていた。通目標の反省の時などに折にふれて声掛けをして徹底していきたい。	B
11			学校行事や児童会行事で使用するものの保管場所を職員にわかりやすくする。	入学式、1年生を迎える会、茶摘み祭り、運動会、感謝の会、6年生を送る会などで使用するものの所在を把握し、整頓する。リストを作成する。	リストが作成できたか。 整頓ができたか。	職員室や家庭科準備室のものを必要なものだけ残し、置き場所を表示するようにした。職員アンケートでは100パーセントの職員が保管場所がわかりやすくなっていると答えた。まだ整理の途中なので、引き続き行っていきたい。又、保管場所へ戻す事を徹底していきたい。	B
12	家庭・地域とつながる学校		保護者・地域から信頼される学校づくりを目指す。	学校情報の積極的な情報公開に努める。	学校経営がよくわかる便りを月1回以上出し、年間7回以上は全戸配布する。ホームページ上で学校の情報を発信する。また、ブログを利用し、情報を頻繁に発信する。	学校だよりが年間12回以上発刊できたか。年間7回以上全戸配布できたか。　毎月2回以上ブログの更新ができたか。	山田小だよりは、毎月発行し既に4回全戸配付をしている。ブログも月平均3回の更新が行われている。このペースでいく目標を達成できる。また、保護者アンケート結果から、学校は情報をよく伝えているという肯定的数値が92%（前年より+2）であり良い傾向にある。	A
13			外部ボランティアとの連携を深める。	保護者・地域の方等に教育活動への参加を呼びかける。	矢掛町学校支援推進本部との連携を深め、学校行事・授業への積極的な参加ができるようにする。 「学習アシスト型授業」を実施し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る	「学習アシスト型授業」「水やりボランティア」「環境整備支援ボランティア」等、外部ボランティアの活動を推やし。「支援者リスト」の支援者数が増やせたか。　「学習アシスト型授業」を2学年以上で実施することができたか。また、教師や児童の感想等でその効果が認められたか。	学習アシスト型授業は、3年生総合学習や5年生家庭科ミシン学習で実践することができた。水やりボランティアも12名の方にご協力をいただいて、校庭のたがいつも美しく保っている。また今年は、山田公民館に依頼をしていただき、安全パトロールに山田地区自治会・町内会の方も加わってくださる。「水やりボランティアの人数を増やすことができた。また、草刈りボランティアの方を募集し、十数名の方に職員では刈ることが難しかった場所の草刈りをしていただき環境がより改善した。	A

分 析 ・ 改 善 方 策

学力向上については、算数たしかめテストを行い児童のつまずきを解消していく実践を継続していく。また、効率的な授業を行うことで時間に余裕を生み出し、補充問題や発展問題などより多くの問題に取り組むようにしたい。コミュニケーション能力の育成については、全国学習調査やヘネッセの調査から数年間にわたって本校の課題となっている。一昨年10月から数学習に読み取りの内容を取り入れている。昨年度1学期後半から4年生以上は「フリートーク」や「全校スピーチ」に取り組み、今年度2学期から3年生も取り組み始めた。また、今年度は全学年で基本的な語彙を指導している。即効性はないが継続することにより、力が向上していくことを期待している。特別支援教育を充実させるため、児童一人一人の困り感をしっかりと把握し、個に応じた指導を工夫していきたい。そのためにも、教員の増員が必要であると考えている。不登校傾向にある児童については、専門機関と連携しながらの必要に応じてケース会議を行い効果的な方策の検討を継続して行いたい。早寝・早起きの習慣作りについては、継続してPTAの主体的な取組と連携しながら児童の生活習慣の改善を推進していきたい。

学 校 関 係 者 評 価

○ 国語算数の学力については、教えて考えさせる授業の取り組みや一人一人のつまずきを解消していく実践を繰り返し積み重ねていくことによって、達成基準に到達している児童が増えている。実に到達度を上げるよう工夫して欲しい。本校の重点課題である表現力・コミュニケーション能力の向上は児童朝会での発表やクラスでのフリートークなど、様々な場で話す機会を多く設けたり話し合いの基本的な語彙を決めたりして取り組んだことで次第に自分の考えを書いたり発表したりするのが得意な児童が増えてきている。更に他校との合同授業などの機会を多くして積極的に発言できる体験を増やしてほしい。特別支援や個別の学習支援を要する児童がいるが、町費の特別支援教育支援員を1名増員してもらったこと等で個別の対応がさやすくなり、落ち着いた学習や生活態度を保つことができた。早寝・早起きなどの生活習慣の定着について、PTAで話し合い主体的な取り組みを使したのは家庭の向上のためにも良かった。家庭によって考えに開きがあるので、継続して取り組んで欲しい。
○ 設置者等への要望
・特別支援に当対応できる非常勤講師の配置と特別支援教育支援員の2名配置を継続してほしい。
・特別支援教育を必要とする児童が増加したので、現在ある自閉・情緒の学級に加えて特別支援学級（知的）の新設を要望する。またその学級新設のための設備や備品の整備をお願いしたい。（網戸の設置も含めて）
・6年生教室壁等の修繕、インターホンの取り替え、シーツ一斉洗等をお願いしたい。

専門評価

評価項目	観点	学校の現状（○優れている点　△改善が望まれる点）	改善の方向性
①自己評価の状況	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題	○教職員が評価領域ごとの担当グループに分かれ、組織的・継続的な自己点検・評価を行う体制が確立している。 ○学校関係者評価委員等への説明も担当の教職員がみたろなど、自己評価に対する教職員の共通理解が図られており、学校評価サイクルが機能している。 ○達成基準が必用に応じて数値化されており、評価の客観性を高めている。その一方で、達成基準を超える結果が得られているにも関わらず評価とされていない項目があるなど、何を評価したいのの検討を通じた達成基準の見直しが必要と思われる。	・2～3年続けて3評価を受けた項目などは十分に水準を達しているものといえるので、学校の経営計画を踏まえ、単年度の重点目標、具体的計画および達成基準の再設定を検討することもあろう。その際、学校全体で問題を把握しているものの、学校だけでは解決が困難なものなどがあれば、それを記載する欄を設けることも考えられる。
②コミュニケーション力の向上	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題	○教科指導だけでなく、学校の教育活動全般において自分の考えや思いを発表する機会が設けられている。また、担任が一人一人の発達状況を把握し、発表の内容や機会に配慮している場面も見受けられ、学校全体で児童のコミュニケーション力の向上に取り組む姿勢が明確になっている。 ○小規模校であることを踏まえ、他校の児童との合同授業が行われ、その成果を児童が実感している。	・発表等の「場」については十分に配慮されているので、今後は、当該年度の重点目標を反映した共通テーマの設定などにより、さらなるコミュニケーション力の向上策を具体化していくことが期待される。
3. 不登校児童生徒の解消	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		
③学習不振児童生徒の解消	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題	○「算数たしかめ」プリントなど学習のつまずきを段階的に解消する取り組みが定着し、それぞれの児童に対応した学習支援が日常的なものになっている。 ○学習支援ボランティアや矢掛高校生徒による支援が継続的に行われ、児童生徒が主体的に学習のつまづきを早期に解消する機会が提供されている。 ○「家庭学習の手引き」を作成・配付するなど、家庭と連携して児童の学習を習慣化するか針が明らかになっている。 ○いじめ・不登校の生まれない環境整備や基本的な生活習慣の定着への取り組みが、学習規律の維持を通じた学習不振児童の解消・予防につながっている。 ○ICTを活用した授業が全校的に取り入れられるなど、わかりやすい授業を実現する姿勢がすべての教職員の間で共有されている。その一方で、日常的な授業への取り組みについての自己評価が必ずしも学校評価書に反映されているとはいえない状況が指摘できる。	・児童の学習不振は、様々な要因から生じるものであるなに留意し、生徒指導や特別支援教育の充実を図る中で対応していく姿勢を より強くもつことが大切であると思われる。 ・自己学習の習慣化や基本的な生活習慣の定着など家庭・地域の協力が必要な面については、コミュニティスクールの利点を活用して、地域ぐるみでの理解・協力を求めていくことができる。
5. 学校の組織運営	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		
6. 学校と保護者・地域社会等との連携協力	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		
⑦特別支援教育の推進と児童理解	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題	○生徒指導終礼やケース会議などを通じて、教職員全体が特別支援教育に対する理解を深め、一人一人の児童に対応する姿勢がみられる。取り出しによる授業に際しても、当該児童が学級の時間であることを同級生に意識させる指導が行われている。また、特別支援教育を行う学級が通常の学級に隣接して設けられており、学校全体で特別支援教育を安定的に行う雰囲気づくりに寄与している。 ○特別支援教育の担当教員による指導の下、落ち着いた学習が実現しており、二次障害への配慮が十分になされている。	・学校全体の安定した学習環境づくりに生活支援員の増員が大きく貢献しており、継続的な配置が強く望まれる。 ・生徒指導の充実や学習不振児童の解消・予防の観点から特別支援教育をとらえる姿勢を今後も継続・強化していただきたい。
8. 学校の総合的な状況	・教職員の間で日常的なコミュニケーションが行われることにより、学校全体で児童を指導していこうとする姿勢が明確に認められる。児童に対する個別対応の姿勢が教職員に意識化され、そのことが教職員と児童の信頼関係に良い影響をもたらしている。ただし、小規模校であることから、個々の教職員の献身的な取り組みに依拠した業務の展開は、教職員の転勤などの条件によって大きく変化してしまう可能性が指摘される。今後も良好な状況を維持していくため、個々の教職員の分掌内容についても学校全体で理解すること（引き継ぎにも活用できる記録作成など）ことのできる体制づくりに努めていくことが望まれる。	

来年度の重点・方針

・全体的に落ち着いた学習環境の中で、集中して学習に取り組んでいる子どもが多い。学習内容の定着もかなりできている。さらに、朝の学習の問題等の内容や、家庭学習の仕方等についても工夫することで一層の学力向上を目指したい。
・表現力の育成のために発表の場を多くしたり、発表の仕方を指導したりすることで、大勢の前でも堂々と発表できる児童が増えてきた。今後はさらに推しすすめ、自分の考えや気持ちを文字で豊かに表現できるようにしていきたい。来年度も、説明や話し合い活動を大切にし、文字による表現やコミュニケーション能力を向上させる取り組みを継続していきたい。また、4年生で実施している合同授業についても、コミュニケーション能力を含めた学力や人間力の育成のためにも継続していきたい。
・特別支援教育については、特別支援学級在籍の児童はもちろん普通学級児童の困り感にも対応できるよう、専門機関・教職員・保護者との連携を図りながら充実させていきたい。また、特別支援教育への理解を深めるために校内研修の機会を適切に設けることができるよう工夫していきたい。
・児童の基本的な生活習慣の定着、特に早寝早起きについて PTAと連携した取り組みを行たかすることで改善を図っていきたい。
・学校支援ボランティア活動や学校運営協議会を更に充実させることにより、地域とともにある開かれた学校づくりを推進していきたい。